

# ボツワナの農牧民カタの父親の養育行動に関する調査

寺本 理紗

平成 30 年入学

派遣先国：ボツワナ共和国

渡航期間：2019 年 8 月 13 日から 2019 年 10 月 14 日

キーワード：multiple mating、mate preferences、Trait ranking

## 対象とする問題の概要

ボツワナの農牧民カタの社会では、女性は生涯 1-5 人ほど異なる父親の子どもを産むが、女性がなぜパートナーを変え続けているのかは明らかではない。人間の女性は妊娠期間が長く・脆弱な子どもを産むため他の哺乳類に比べて子どもの生存のためには父親の子育てが重要である。そのため、人間の女性は（１）子どもの父親として適当な能力をもった男性を好み、（２）その男性と長期的なパートナーシップを形成すると考えられている [Trivers, 1972]。一方で、カタの女性の場合、未婚で出産するため（１）子どもの父親との関係が不安定であり、婚外子に対する父親からの十分な養育サポートは期待できないことがわかっている。そのような状況にある女性がパートナーを変え続ける理由を明らかにするためには、パートナーを変えることによって女性が何らかのメリットを得ている可能性を検討する必要がある。

## 研究目的

例えば、配偶者戦略の 1 つである Trading-up 理論 [Scelza *et al.* 2018] をカタの社会に適用した場合、女性はパートナーを変える度にパートナーから見込まれる養育貢献度を高めているなどのメリットを得ている可能性があるかもしれない。今回の調査では、カタの女性がパートナーを変え続けていることのメリットを明らかにするために、父親の養育行動に関する聞き取り調査とアンケート調査をおこなった。アンケート調査では、~65 個ぐらいの Traits から、（１）長期的パートナーとして好ましい特徴、（２）現在のパートナーにあてはまる特徴、（３）現在のパートナーに妥協している特徴をそれぞれ 3 つずつ選択してもらった。集計されたそれぞれのトレイトは（i）現在のパートナーシップの種類（既婚・未婚）（ii）パートナー数（iii）年齢の 3 つの変数ごとに分析された。今回の調査ではカタの女性全体の好みではなく個人の好みを調査することを目的としている。

## フィールドワークから得られた知見について

調査はボツワナ南東部 Kgatleng 地区で約 2 ヶ月間現地の調査助手とともに英語と現地語によっておこなわれた。聞き取り調査では、（１）女性の月収・学歴・子どもの数・家族構成などの社会経済的ステータスに関わる内容と、（２）パートナーとの交際期間・

別れた理由・パートナー男性の子どもの数（婚外子の総数と母親の総数）などの性行動に関わる内容の聞き取りを行った。回答内容の分析結果において重要だと思われた点は、女性がパートナーを変え続ける主な理由が（１）相手の浮気（同所的にパートナーを増やす）、（２）パートナーの逃走（女性のもとを去ってパートナー数を増やす）の２つだった点である。この結果は、女性の配偶者に対する好み（i）魅力的で他の女性からも人気がある男性と（ii）女性に対する選り好みより強い<sup>1</sup>男性に集中している可能性を示しているため、重要である。特に、（２）の逃走型の男性の存在は、“男性の選り好みの強さ”が女性の性行動に影響を及ぼしている可能性を示した。近年まで、動物のオスの選り好みについては過少評価されており不明な点が多く、注目されてこなかった [Edward *et al.* 2011; Fitzpatrick *et al.* 2018]。人間の男性においても実証研究の例が少ないため [Scelza *et al.* 2018]、今回の結果はそうした男性の選り好みの強さが女性の性戦略に影響を及ぼしてきた可能性を示唆する研究として重要である。アンケート調査の結果として重要だと思われる点は、女性の好み／父親数に関わらずパートナーとして短気（Short-temper）な男性が選ばれている点である。また、女性のパートナーに対する好みには Respectful が最も多く選ばれていた。いずれの調査においてもカタの男性の養育貢献度は低く、女性がパートナー選択の際に父親としての素質を重視していないことが分かった。

## 反省と今後の展開

今回の結果から、女性がパートナーを変え続ける性戦略の要因として、男性の選り好みの“強さ”が関係していることがわかった。一方で、人間の男性の選り好みや選り好みの強さが進化してきた背景やそうした男性の選り好みの強さに対して女性がどのように性行動を変化させてきたのかについては今後より詳細な調査が必要であると考えられる。今後の調査では、（１）逃走型の男性の性行動と（２）同所的に１人の女性の間子どもを増やし続ける男性の性行動とを比較することで、女性の多回数に渡って父親を増やす戦略のメリットに対する研究の精度をあげることができると考える。また、トレイトランキングの結果をもとに“短気”や“リスペクト”といった特徴の社会的ニュアンスを把握することで、養育貢献度以外を配偶基準とする女性の性行動のバリエーションの理解につながると考える。

## 参考文献

- 【１】FITZPATRICK C, SERVEDIO M. 2018 *Current Zoology*, *The evolution of male mate choice and female ornamentation: a review of mathematical models* 64(3):323-333. 【２】Edward D, Chapman T. 2011 *Trends in Ecology and Evolution*, *The evolution and significance of male mate choice* 26(12). 【３】Scelza BA, Prall S. 2018 *Evolution and Human Behavior*, *Partner preferences in the context of concurrency: What Himba want in formal and informal partners* 39(2):212-219. 【４】Trivers R. 1972. Sexual selection and the descent of man *Parental investment and sexual selection* In B Campbell (Ed.) Chicago: Aldine Press, pp. 139-179

---

<sup>1</sup> 男性の選り好みの強さは（１）一夫多妻を形成しない、（２）子どもを産める女性の遺棄、（３）男性によるメイトガーディングの停止で評価した。



カタの女性が飼っているヤギ



従来の家（左）と建設途中の家（右）